

障害者支援施設 鹿野かちみ園

1 基本方針

利用者の人権を尊重しながら、1人ひとりが生きがいや役割をもって楽しく穏やかに生活できるよう日々支援するとともに、その人に相応して自立への支援を行う。
また、地域に根ざした信頼される施設運営を目指す。

2 利用者の状況（令和8年3月31日現在）

（1）入所者状況 (人)

利用者人数		前年 度末 利用 者数	令和7年度中の入退所状況								利用 延人員	対定員 年間 平均 稼働率	年度 末利 用者 数	
区分	定員		入所 人員	退所 人員	退所理由別									
					地域移行		家庭 復帰	施設 移管	契約 解除	死亡				
					GH	単身								
生活介護		60	65	2	4	0	0	0	2	2	0	14,087	87.3%	63
施設入所		60	54	2	4	0	0	0	2	2	0	18,480	84.4%	52
6 年度	生活介護	60	73	1	9	0	0	0	3	2	4	15,012	93.0%	65
	施設入所	60	62	1	9	0	0	0	3	2	4	19,706	90.0%	54

（2）障害支援区分

①生活介護 [平均5.0] (人)

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	3	4	17	10	34
女性	0	0	0	0	7	9	13	29
計	0	0	0	3	11	26	23	63

②施設入所支援 [平均5.2] (人)

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	3	4	14	9	30
女性	0	0	0	0	1	8	13	22
計	0	0	0	3	5	22	22	52

3 事業の実施状況

（1）要介助高齢知的障がい者支援の充実

高齢化に伴う身体機能低下（ADL低下）、生活習慣病、脳の機能低下（認知等の低下）に早期に気づき、機能維持、治療等速やかな対応を行った。

ア 健康管理

内科医（週1回）や精神科医（月2回）の定期往診のほか、小さな異変に気づいた際には、速やかに医療相談や受診につなげた。

また、新型コロナウイルス感染症発生時（今年度2回発生）においては迅速に拡大防止の対応を行い、蔓延を最小限に留めた。

イ 高齢知的障がい者対応

毎年の歯科検診を実施するとともに、毎月、歯科医師及び歯科衛生士の往診のもと、ブラッシングケアを実施した。また、日々の職員による仕上げ磨き等を行い、虫歯予防、歯肉炎・歯周病予防に努めた。

ウ ADLの活動性を高める支援

- ・作業療法士による利用者の機能評価を行った。1人ひとりに応じたリハビリを行うとともに、集団指導や適切な介助方法の伝達により、介護予防と機能維持を図った。
- ・今年度より、他法人の言語聴覚士を招聘し、喉詰めや誤嚥防止のための嚥下機能評価を行い、食形態の見直しや正しい食事姿勢の保持方法への変更、自助具の検討などを行った。
- ・利用者に対する骨密度測定を実施し、転倒等による骨折のリスクが高い方に対する骨粗鬆症治療薬の検討や環境の調整、履き物点検などを行い、リスクマネジメントに努めた。
- ・認知症が疑われる方については、専用の認知症判別尺度を活用し、適切な支援や介助方法の検討に繋げた。
- ・施設内の要介助高齢部会を中心とし、異物除去研修、ポジショニング・シーティング研修、おむつの正しい当て方研修などを行い、職員の支援技術の向上に努めた。

(2) 利用者支援の質の向上

ア 行動障がい支援

鳥取県発達障害者支援センター「エール」専門員の招聘のもと、施設内の障がい者支援部会を中心に、1ヶ月に1回検討会及び研修会を実施し、構造化の構築や行動記録表の分析を行うなど、行動障がいのある方に対する適切な支援方法の確立に努めた。

イ 精神障がい支援

精神科病院医師の定期的な往診のほか、他法人からの臨床心理士の招聘により、1ヶ月に1回ケース検討会を実施し、精神障がい特性の理解や、適切な接し方などの検討を行い、支援力の向上に繋げた。

ウ 意思決定支援の取り組み

個別支援計画の作成において、できる限り利用者本人の意思を反映するため、意思決定支援の取り組みとして、重度の方に対する意思形成支援と意思表出支援に取り組んだ。

(3) 日中活動の充実と潤いのある生活の提供

個別支援計画の中に、可能な限り余暇支援を盛り込むとともに、希望に応じた買い物外出や食事外出、週2回の移動販売車による買い物機会を提供するなど、利用者の日常生活の充実に努めた。

また、自治会活動の主体的な運営を進め、毎月1回季節に応じた行事等を行った。

(4) 「社会参加の機会の確保」・「地域社会における共生」・「福祉人材教育」の推進

自治会活動の一環として地域の清掃活動（ゴミ拾い）を実施し、地域とのつながりを深めるとともに、利用者の社会参加の機会を提供した。

利用者が制作したアート作品を展示する「アート展」を8月と2月に開催した。

利用者一人ひとりの創造性や表現力を広く地域社会に発信し、障がいへの理解を深めることができた。

また、鳥取短期大学や鳥取社会福祉専門学校からの実習を受け入れ、地域における福祉人材教育の推進に寄与した。

(5) 権利擁護・虐待防止の取り組み

法人統一で年1回実施している虐待防止チェックリスト以外にも、職員自身のサービス自己評価を実施し、支援内容や関わり方について客観的に見直しを行った。

評価結果は職員間で共有し、支援方法の改善や統一を図るとともに、利用者本位の支援の実践につながった。

また、権利擁護、虐待防止等に関連する研修会等への積極的な参加に加え、施設内においては、全国で発生した虐待事例を逐次取り上げ、発生要因や背景の分析、適切な対応方法について検証を行った。これにより、自施設におけるリスクの再認識と、具体的な予防策の共有を図った。

(6) 経営改善・基盤の確立

今年度の稼働率は、以下のとおり

実績稼働率：生活介護87.3%、施設入所84.4%、短期入所22.6%

人員配置体制加算の2：1から1.7：1への変更や、行動障がいのある利用者については積極的に重度障害者支援加算等を受給するなどし、収入の向上に努めた。

施設入所支援については、平均障害者支援区分は5. 2、平均年齢が61. 7歳と近年、重度・高齢化が顕著に進行している。

今後、人材の確保が困難となる現状も踏まえ、支援の質および安全性を確保する観点から、現行の職員体制を踏まえた適正な運営について検証を行うとともに、その一環として定員の見直し等を引き続き検討する。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
鳥取短期大学	8 月	1 人	10 人
鳥取社会福祉専門学校	11 月	1 人	5 人
計		2 人	15 人

(2) ボランティアの受入実績

鳥取市鹿野町赤十字奉仕団(縫い物) [延べ44人]

5 附帯事業

(1) 短期入所事業 定員2名及び空床型

(2) 日中一時支援事業 定員 上記同様

(3) 利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	8	165	9	26
日中一時支援	0	0	0	0